

調査補助者との対話から人類学的実践を捉えなおす

日程: 2026 年 10 月 25 日(日)13 時から 16 時

会場: 東京外国語大学海外事情研究所 (研究講義棟 427 号室)

使用言語: 英語・フランス語(必要に応じて逐次通訳あり) / 事前申込不要 / 参加無料



講演者:

チャールズ=ジョーンズ・ンソンカリ 氏 (独立コンサルタント)

シモン・ピエール・エトガ 氏 (Association Tam Tam mobile)

ワークショップの趣旨:

人類学のフィールドワークは、現地の調査補助者の協力によって支えられています。調査補助者は、研究者と地域社会のあいだに立ち、フィールドで生じるさまざまな課題や問題に関わることになります。その視点からは、フィールドワークはどのように見えるのでしょうか。カメルーンで 30 年以上日本からの研究者と関わってきたチャールズ=ジョーンズ・ンソンカリ氏とシモン・ピエール・エトガ氏を招き、調査補助者としての長年の経験をもとに、フィールドワークや調査研究について語っていただきます。続いて、両氏と共に調査を行ってきた研究者や学生を交えたラウンドテーブルを行います。こうした対話を通じて、研究者、調査補助者、地域社会の関係をあらためて捉え直し、人類学をはじめとする野外科学における、より協働的な研究実践の可能性を考えます。

主催: 科研費「カメルーン東南部の多民族社会における人口・土地利用・森林資源利用の長期動態」(24K15429、研究代表者: 大石高典) / 共催: 東京外国語大学現代アフリカ地域研究センター、京都大学アフリカ地域研究資料センター、TUFS フィールドサイエンスcommons、NPO 法人 FENICS

プログラム

13 時-13 時 10 分

13 時 10 分-14 時 40 分 対話セッション

- 熱帯林社会の人類学

チャールズ＝ジョーンズ・ンソンカリ、大石高典

- 都市人類学

シモン・ピエール・エトガ、平野(野元)美佐

14 時 40 分-15 時

コーヒーブレイク

15 時-16 時

ラウンドテーブル

チャールズ＝ジョーンズ・ンソンカリ、
シモン・ピエール・エトガ、大石高典、平野(野元)美佐、
研谷心和

講演者プロフィール



チャールズ＝ジョーンズ・ンソンカリ

カメルーン東部地域のベルトアに在住。農業に従事する傍ら、研究助手として数十名の国際的な学者、学生、ジャーナリストの研究を支援してきた。2010 年代以降、熱帯林地域の先住民(バカ人)の権利を擁護する社会運動に関わっている。英語、フランス語、バカ語、バクウェレ語に堪能である。



シモン・ピエール・エトガ

カメルーンの首都ヤウンデに在住。フォトジャーナリストとして活動する傍ら、主に都市部において数十名の研究者や学生を支援してきた。1997 年には NGO「アソシエーション・タム・タム・モバイル」を設立し、都市部に広がるスラム街の生活環境改善を目的としたアクションリサーチに取り組んでいる。

大石高典、東京外国語大学大学院総合国際学研究院・准教授

平野(野元)美佐、京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科・教授

研谷心和、東京外国語大学国際社会学部・学生

連絡先 大石高典 e-mail: takanori@tufs.ac.jp, Tel: 080-6123-4706